



町長日誌

No.252

町長日誌の第 252 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を
町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

10月21日（月曜日）

峠では初雪の便りも聞こえ始めましたが何となく温かく穏やかな 10 月ではないでしょうか？
今回の町長日誌も先月に続き南米訪問記「ブラジル編」です。

8月19日（月曜日）～30日（金曜日）【12日間】

8 月 20 日の夜に成田からドバイ経由でブラジルのサンパウロに入りました。空港では北海道人会の平野会長はじめ多くの方が歓迎のセレモニーを行ってくださいました。翌日はパラグアイを訪問し、前回お伝えしたような行程で式典などに臨みました。23 日には陸路イグアス（滝で有名）に入り、24 日には唯一の観光であるイグアスの滝を歩いて見学（合羽を着ても濡れる）しました。イグアスの滝はパラグアイ・ブラジル・ボリビアの 3 国の国境にあって、水力発電所が 10 基もあり、そのうち 2 基でパラグアイの電力を賄っています。残り 8 基はブラジルに売電しておりパラグアイはエネルギー自給率 100%の国となっています。24 日から 27 日までではブラジルで式典や歓迎会、視察などを行いました。

ブラジルの行程

- 24日 夕方にサンパウロ着、道人会歓迎夕食会
- 25日 北海道入ブラジル移住105周年・ブラジル北海道協会85周年記念式典、社会貢献賞授与式（道から）、祝賀会、ブラジル北海道文化福祉協会幹部との夕食懇談会
- 26日 サンパウロ州議会視察、日本移民開拓先没者慰霊碑参拝、在サンパウロ日本国総領事表敬訪問、ブラジル北海道文化福祉協会と意見交換会、道主催夕食会
- 27日 アルモニア学園（日系人のための学校）訪問、ブラジル日本移民資料館訪問、夜20:30見送りを受ける日本へ



以上が 4 日間のブラジル訪問スケジュールです。ブラジルは治安が悪いのでバスから降りたら「一人で歩くな」、「スマホが狙われるから外で写真を撮るな」と言われました。また、急速に発展しているため道路整備が追いつかず交通渋滞がひどく、夕方などは 15 分で行けるところが 1 時間もかかるほど混みあう始末です。でも、私たちは大使館の手配もありバスの前後に白バイがついて左折する時などは強制的にほかの車を止めて私たちのバスを優先してくれます。また、街中で買い物や食事をするときなどは常に SP 二人が護衛するほど治安が悪いのです。貧富の差がひどく路上で寝る人、橋の下で暮らす家族など町のあちこちで見受けられました。パラグアイに比べ人口は多く経済成長著しいブラジル社会で日本人移民 24 万人は現在 200 万人を超えるまでに増え「ニッケイ」という言葉が現地の通用語になるほど日本人はブラジル社会で認められています。現在日系人は 7 世も生まれていて、日本語が話せない人が大多数になりつつあります。サンパウロ市内の日系人はほとんどが農業以外の仕事をされていて農業はアマゾンなど奥地で経営している人が多いと聞きました。興部町からは宇津地区などから 22 戸が移民した記録があり、今も連絡を取り合っている方も承知していますが、残念ながら今回の訪問ではお会いすることは出来ませんでした。

ただ、西興部村中藻出身の鶴 勝（つるまさる）さんと今回お会いすることが出来ました。一昨年来道されたとのことで、興部の昔を懐かしく語っていました。ブラジル移民は当初奴隷が手に入らなくなった大農園の雇用対策と当時の日本の事情が合致して始まりました。しかし、あまりにも劣悪な環境から逃げる農民が増え、制度を見直し笠戸丸での移民は昭和 48 年まで続きました。日本人慰霊碑には当時の田中角栄総理の字が刻まれていました。現在、南米の国々は日本との貿易を強く望んでいます。輸送コストの課題はありますが食料・エネルギーの自給率が低い日本にとって日系人の皆さんの力はとても大切な財産 であると強く思った南米訪問でした。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。

